

応援歌第一号

一、天の麗光身に浴びて

望みに生ける丈夫が

朝鍛暮練の手並をば

今ぞ表わす秋到る

二、玲瓏天声さながらに

鳴くや雁秋高し

雄途や我に待つならん

いざ立て友よさらば行け

四、秋穹隆の気は澄みて

包みかねたる鋒先を

鳳翼翔りて天駆けば

群鷄あせり狂うのみ

五、さあれ興廢この一挙

手練の鋒のたゆみなく

鉄腕よしや折るとも

血染めの桜咲かせみん

三、疾風砂塵捲かば捲け

狂乱天を打たば打て

尊き使命を果たすべく

勇心卓犖胸にあり



てんのれいこうみにあびて のぞみにいけるますらおが



ちようたんぼれんの てなみをば いまぞあらわすときいたる